

2026年度 春闘県教委交渉 県教委は子どもと教職員守る責任を果たせ 施設改善も超勤解消も待ったなし

はじめのあいさつで船石執行委員長は、「昨年、給特法の改定があったが、私たちは、これを歓迎していない。各職場は、相変わらず大量の仕事があり、さらに増えている。「働き方改革」にはなっていない。一方、今年度から中一までが、35 人学級になり、少人数学級が進む



全教広島交渉団とあいさつに立つ船石委員長(写真左から2人目)

年々過酷になる猛暑。県教委が県立高の再編を強引にすすめるようにする中であっても、再編対象校を含め、エアコンの設置は、いま学校に通う子ども達の発達、安全な学校生活のために最優先の課題のはずです。しかし、全県立学校へのエアコン設置の要求に対して、施設課課長代理は「優先課題を考慮しつつ」「学校から

体育館・特別教室 エアコン設置は 最優先課題

ことが仕事量の軽減につながる実感はある。さらに30人、25人と欧米に近づけるべきだ。学校の実態を聞き、改善に向けて動いてほしい」と述べました。

全教広島は、7月9日、春季教育要求書に基づく県教委交渉を行いました。県教委からは、今年度から新しく任についた中西教職員課長を責任者に、健康福利課長、施設課、総務課の課長代理等が出席しました。県立高校の統廃合、施設の老朽化、給特法改定後も改善の兆しがみられない長時間過密労働、教員未配置など深刻な問題が山積みです。執行委員を中心に11名が参加し、現場の厳しい実態を伝え、それらの改善を求めました。

県教委の出席者
(写真奥、右から4人目が中西教職員課長)

の要望を踏まえて」などと回答。エアコン設置の年次計画もないというありさまで。全教広島交渉団は「学校の要望を待つまでもない。一部の学校に大金を投じている場合ではない。トイレの洋式化も含め、施設改善をしないのは県教委の責任を放棄していると言わざるを得ない」と厳しく指摘。国の「グランドデザイン」に忠実な計画をつくり、62億円を得て4校に集中させる一方で、全ての子ども達の学習環境整備に後ろ向きな県教委の姿勢が露わになりました。

先日、帰りの会でポテトチップスの袋を話題にしました。皆さんご存じですか？白黒パッケージがあることを。カラー版と白黒版(実物)の両方子どもたちに見せると、「あー！知ってる。」「なんちゃら海峡のやつじゃろ？」と数名の声が。「ちよつとなりの人とこれについて知っていることをしゃべってみてよ。」と言うと、思った以上に多くの子どもたちがワイワイガヤガヤと話し始めました。ホルムズ海峡で何が起きているのか、よく知っているという子に語ってもらうと、私が語るときよりも真剣にみんなが聞き入っていました。最後に私が「この原因をつくった人たちのうちの一人を、日本の首相は『世界に平和と繁栄もたらせるのはあなただけ』と褒め称えたそうですよ。」と言うと、「はあ？！何言いいよん。」「わやじゃ！」との感想とともにチャイムが鳴りました。子どもたちは想像以上に冷静に情勢を見ています。これって、教育基本法違反になるのでしょうか？(Y)

あらくさ

「特支教員の負担は 軽くなっているのか」 の問いに答えず

昨年の給特法等の改定を受けて、広島県でも2027年1月から2年間かけて、特別支援学校・学級の教員の「給料の調整額」を半減する規則改正が行われました。これによる減額は一般の教員で月額約5700円です。国も県も、この減額の理由を「通常学級にも特別支援を必要とする児童生徒が増えたから」と言います。しかし、これは「給料の調整額」の減額の理由になっていません。交渉団は県教委に対して、「減額するということは、特別支援教育に携わる教員の負担が軽減したと考えているのか」と問いました。しかし、この問いに対して教職員課長は前出の「理由」を繰り返すのみで、ともに回答できませんでした。交渉団は「給料の調整額」減額に道理はないことを再度主張し、実施中止を求めました。



県教委の交渉出席者

再任用一時金 引き上げを

再任用職員の一時金は、一般が4・65月であるのに対して2・45月と低すぎます。これを「一般と同等に引き上げよ」という要求に対しては、「人事委員会の勧告によるべきもの」と型通りの回答。昨年度の交渉で「課題は認識している。人事委員会と協議を重ねる」と回答していたことを伝えると、「現場の実態・要望は伝えている」と県教委は応じましたが、そこから前進した回答はありませんでした。



全教広島交渉団

国の動向ではなく 現場の実態を見よ

給特法等の改定に伴う文科省の通知は、「主務教諭の創設」や「メリハリのある給与処遇」など、教職員の間に格差を設けて人事管理を促す内容があります。交渉団は、それらは学校の働き方になじまないものとして反対を主張しました。県教委の回答は「国の動向をみて検討する」「現段階で言えることはない」などを繰り返し返すにとどまりました。

また、超勤解消に関わって、●初任研の弾力的な実施●修学旅行等での割振りの1日あたり4時間の拡大●学テの悉皆調査・自治体ごとの平均点公表・過剰な対策の中止●大雨等での休校による授業減の過剰な回復をやめること●県立広島中学校の調査書の簡素化などを、学校現場での実態を伝えながら要求しました。

増え続ける定数内臨採

下表に示すように、県内の定数内臨採は、年々増え続けています。原因は、採用数の少なさ

に加えて、名簿登載されても、他県や他職に移る人が多いことです。このままでは、「教育に穴があく」実態がますます深刻になり、長時間過密労働に歯止めがかからず、教職員のなり手が少なくなるという悪循環に陥ります。教育条件の改善も、超勤解消も、まさに待ったなしです。

定数内臨採の数	
2022年	876人
2023年	859人
2024年	1150人
2025年	1166人
2026年	1224人

今回の交渉で具体的な進展はありませんが、現場の実態と諸要求を訴え、確定での制度改善を求めています。

尾道支部定期大会 つながりづくりすすめよう



6月27日に第38回支部定期大会を支部事務所（Sビル4階）で行いました。参加者4名。

今回の定期大会は、中本書記長が持参した「尾道市立学校の教育職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画」の内容を検討し、尾道市の教育現場の実態や課題について議論を深めることができました。例えば、「取組方針」にある時間外在校時間について、約10年間でかなり改善されていることが掲載されていますが、実態は、業務量は増えており、時短ハラスメントもあり、持ち帰り仕事量が増えている実態があること。また、教育職員の勤務内容や時間軽減を目的とした支援員や非常勤講師が配置されていることも掲載されていますが、教職員の多忙化が解消できていない実態などを確認しました。

会議や学習会に参加しにくい組合員も多い中で、職場訪問にもとりくみ、つながりづくりをすすめていくことを確認し、有意義な定期大会になりました。

養護教員の複数配置基準 さらに引き下げを！

養教部 総会

7月19日、福山支部事務所
養護教員部総会を行いました。
広島、尾道、三次からOBや未
組の方を含め、6名が集まりま
した。
船石委員長のあいさつのあ
と、北脇先生（全教養護教員部
事務局長）から全国の情勢につ
いて報告がありました。複数配
置の基準が、小学校で児童数8
01人以上、中学校で生徒数7
51人以上となり、以前より
50人下がりました。しかし、
子どもたちの現状や、事務量の
多さを考えるとこれでは負担
は解消されません。引き続き、
複数配置の基準引き下げの取
り組みが必要です。中体連の救

護係として養護教諭が参加す
ることについても地域差があ
り、広島市では看護師派遣が
実現しています。他市町村で
もその実現をめざすことを確
認しました。
総会の後半は、職場の状況や
子どもたちの様子を交流しま
した。自分たちの権利にかか
わる介護や病児、育児の制度
のこと、給食対応やアレルギー
に関すること、生徒指導や
不登校対応、保健室登校の悩
み・日頃は、それぞれ離
れた場所です仕事をしていま
すが、集まり交流し、共感する
ことで元気が出る会となりま
した。

「働き方改革」は自助・共助では進まない！
持ち時数の軽減で教材研究のたのしさを！

女性部 総会



全教広島女性部定
期総会は、6月27日
ロッドビルにてオンラ
イン併用で開催しま
した。はじめに、船石
委員長から真の「働き
方改革」を求めるこ
と、平和に貢献できる
国になるための運動の
重要性についてお話が
ありました。次に、役
員より2025年度の
まとめと2026年度
の運動方針、2025
年度決算と2026年
度予算について提案
し、了承されました。
後半の参加者によ
る交流では、持ち時間

数が多すぎて心も身
体も余裕がないこと、
自助・共助による働き
方改革を求める管理
職などについて話が
出ました。教材研究の楽
しさについて語る一方
で、それが持ち帰り仕
事になっていることな
どが課題としてあが
り、「働き方改革」につ
いて、それぞれの職場
でどのように取り組
まれているのかを交流
しました。アンケート
の結果と合わせて、夏
の専門部交渉で要求
として伝えていこうと
確認しました。

広島教育研究所の 相談活動を強化します 『なんでも質問箱』

「困ったな」「どうしよう」と
思ったときにはご活用を！

総会場で出された研究所への希望・要望に
応える『なんでも質問箱』をつくりました!!

- ① どうしたらいいかわからない場面に遭遇
したときに、「知恵袋」的に書き込み等すると、何
日か後には返事が来るようなことができないか。
- ② 先生のなかにもわが子が不登校で動きが取れなく
なっている仲間がいるのではないか。
話を聞くだけでもできないか。
等の要望が出されました。

広島教育研究所としては、
ぜひ応えたいと、『なんでも
質問箱』をもうけました。
ぜひ、利用してください
周りの方にもお知らせください。



右QRコードからお入りください。

みんなで21世紀の未来をひらく

教育のつとめ

教育研究
全国集会
2026
愛知

開会全体集会

8月21日(金) 13:00~15:30 オンライン無料配信

愛知県名古屋市／名古屋公会堂
あいさつに立つ武本支部長

講演



岡野八代さん 同志社大学大学院教授
専門は政治思想、フェミニズム

政治をアップデートする ——憲法、ジェンダー、個人の尊厳から

講演では、みなさんと日本国憲法の先進性、個人の尊厳と人権、
そしてなにより世界平和を望み、そこに向かう決意を国際社会
に誓った意味を共有したいと思います。そのうえで、やはり第二次世界大戦後に人
類の悲惨を繰り返さないようにと構築され続けてきた国際法を無視する暴力支配
に追従することが、憲法のアップデートなどという妄言に対して、政治をアップデ
イトすることこそがわたしたち市民の喫緊の課題であると伝えたいと思います。

現地企画 いのちと平和と子どもたち

教育のつとめ 2026 オープニングアクト

「愛知教職員合唱団きぼう」が呼びかけて参加する愛知の合同合唱団
いま、世界各地での戦争や紛争で、罪もない子どもたちが数多く犠牲になっ
ています。そして、平和を願う人々の声が渦巻いています。私たちはそんな世界
の中で、未来を生きる子どもたちを前にどんなメッセージを発信していくのか、
そんな思いで選曲しました。

オンライン視聴
できます！



開会全体集会はYouTube
配信(無料)します。以下の
URL又は左のQRコードで視
聴できます。
<https://00m.in/WhePL>

オンライン
視聴を！
ぜひ



教育シンポジウム 会場の様子

教育シンポジウム2026

保護者、地域、子どもとともに学校をつくる

自分の足で通えるところに高校を
再編計画見直し求める運動はこれから

7月25日、広島ロードビルで教育シンポジウム2026を開催しました。今回のテーマは「保護者、地域、子どもとともに学校をつくる」。広島県教委による住民無視の県立高再編計画が進められようとしています。また、中山間地域の高校も以前から統廃合の危機に直面しています。こうした中で、地域の県立高校の存続を求める3つの地域からの実践報告がありました。



柿高Fly
勝又阿利紗さん

自身のお子さんが不登校になったことをきっかけに7年前に静岡県から江田島へ移住した勝又さん。長男が通えるようになった大柿高校が統廃合の対象となっていくのを見過ごすことができず、同校の市民サポーター「柿高Fly」を立ち上げます。そして、当初は引き気味だった学校や、地域の人々を巻き込み、週1回



公立高校を守る
安佐北区の会
坂本達也さん
地域のお母さんといっしょに

広島市安佐北区は、この度の再編計画で安西高と高陽東高を高陽高に統合する計画となっています。坂本さんたちは、2月の県教委の計画案発表を受け、早々に「守る会」を立ち上げ、独自の署名を作った地域の子も園、社協、自治連などに協力を募り

ました。4月からは地域の大型ショッピングセンターなどでも署名活動にとりくみます。5月中旬に全県の「守る会」と共同で県教委に2548筆の署名を提出し3校の存続を訴えました。しかし、5月15日に県教委は計画決定を強行します。「守る会」は、署名提出の場で県教委が「説明会を望むのであれば、対象校の校長を通して」と言っていたことを受け、高陽東高の校長に依頼し、説明会を開くよう求めますが、県教委から「学校関係者ではない」という理由で拒否されます。現在、新しいチラシを作り、この問題の学習会を開くなど、あきらめずに説明会の開催を求めています。



子ども教育を守る
福山市民の会
小林克己さん

小林さんは、「解放教育」との闘いの中で生まれ、「是正指導」により衰退し、「ゼロトレランス」への疑問から再建されてきた「福山市民の

会」の歩みを報告。最近では毎年の総会での記念講演、「子育て・教育力フェ」の定例開催、対市交渉や「『教育』を読む会」など、現役子育て世代の参加もあり、活動の幅が広がっています。解放教育以来、コロナと方針が変わる福山の教育政策ですが、「夏休みを返して」「福山に児童館を」「生徒指導規程見直しを」など具体的な内容で学習・運動を重ねてきました。市民の会による「先生たちにとって息苦しく感じる学校は、子ども達にとっても息苦しい」との追及に市教委も正対するようになってきたと小林さん。福山地域の5校を1校に再編する計画に対しても、見直しを求める運動はこれからが佳境だと思気込みを語りました。

説明会から 逃げる県教委

3つの報告の後、6月30日に安芸南高校で実施された再編計画の説明会の様子も報告

参加者の感想より

○地域とともにある高校として、大柿高校の話はとても参考になりました。
○子ども達は未来です。子ども達の姿がない地域は未来ありません。
○県教委と地域との温度差がちぎまり、子どものことを考えた教育ができますように。